

様式1

平成17年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 遺伝子実験施設
代表者氏名 安西弘行

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40字以内)

小・中学生のためのバイオ体験講座

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先： 阿見町立阿見・竹来・朝日中学校 及び 阿見町立小学校8校

連携内容：(1000字以内、連携の方法、内容、計画、期待される成果等を具体的に明記)

中学生については、我々の身近な視点から、微生物、動植物のバイオテクノロジーに触れる実験講座として夏休みに実施し、遺伝子実験施設スタッフと農学部教員の協力で進める。内容としては1)ホタルの発光を題材に酵素を科学する。2)世界のお米の試食や電子顕微鏡での観察によりおコメを科学する。募集及び実施後の意見集約に関し阿見町立の3中学校に協力をお願いする。日程については8月17日 午後に20名定員で予定している。

また、小学生については親子講座として、お子さんとご家族が一体となってバイオに触れる機会を提供する。内容については 1)タマネギや口腔粘膜の細胞核の 顕微鏡観察。2)鶏レバー等とオキシドールの反応による酸素発生やホタルの発光やを通じた酵素の科学。募集については各町小学校と連携し、また、地域の広報誌への掲載をお願いする。日程については10月の土曜日の午後 1日のみで、親子8組を予定している。

両企画は、バイオテクノロジーそして広くはサイエンスに興味を持ってもらう理科離れ対策と、地域への本学農学部、遺伝子実験施設のPRとしての効果が十分に期待出来ると考える。

申請分野 1地域教育力 2地域環境形成、自治体との連携 3産官学連携 4学術文化 5その他の地域との連携

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績（別紙可）

中学生については過去3回実施しており、延べ43名の参加者の皆さん、そして中学校からは好評頂いており、中には中学1年から連続3回参加したお子さんもいる。

小学生親子につきましては今回が初めての企画であるが、本施設とNPO法人くらしとバイオプラザ21・科学技術館の共催により、本年6月4日（土）科学技術館（東京）の実験室にて実施した実績がある。この時は親子10組21名の参加であった。

（別紙資料 参照）

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
久留主泰朗	遺伝子実験施設 （農学部併任）	施設長 教授	全体統括
安西弘行	遺伝子実験施設	助教授	酵素の科学 講師
新田洋一	農学部生物生産科学科	助教授	おコメの科学 講師
井上栄一	農学部生物生産科学科	助教授	細胞核の顕微鏡観察 講師